

■収穫ステージを意識する

思うようにならない収穫作業ですが、苦勞の末に手にすることができた貴重な飼料の特色を知ることが、牛に給与する前の重要な作業です。

飼料分析をすれば良いのですが、現実には圃場によって、ときにはロールによってばらつきがあるので、自給飼料の正しい評価は困難です。そこで、目安として「標準飼料成分値」（全国から集めたサンプルの平均値）を利用することができます。表はイタリアンの生育段階（収穫ステージ）別の成分値です。参考のため、稲ワラと麦ワラも載せています。

表 ステージ別成分値(乾物%)

ステージ区分	CP	TDN
年内刈・出穂前	23.8	76
一番草・出穂前	19.5	69
一番草・出穂期	11.3	62
一番草・開花期	9.4	54
一番草・結実期	8.7	47
再生草・出穂前	18.5	65
再生草・出穂期	14.4	60
再生草・開花期	10.5	55
再生草・結実期	11.0	51
稲ワラ	5.4	43
小麦ワラ	4.2	44

一番草の出穂期(穂が出揃った頃)と結実期(実が固くなった頃)を比べてみると、1.3倍もの違いがあります。特に結実期は、エネルギーがワラ並みでも、CPは稲ワラの1.5倍もあります。自給飼料は給与する牛(搾乳、種付、育成、乾乳)によって使い方(組み合わせる他の飼料の種類と量)を考える必要があります。

■極晩生飼料稲「つきことか」

試験栽培した「つきことか」の速報です。出穂は「たちすずか」よりも21日も遅い10/1でした。より長稈で穂も少ないようです。しかし、「たちすずか」よりも多収ということでもないようです。

県内では採種が難しいので、種子代金が高くなりますが、極晩生の特色が刈り遅れ対策になるかもしれないと期待できる品種です。



(たちすずか)

■飼料稲「つきことか」

関東地方で深刻になっている縞葉枯病対策として品種転換が急速に進んでいる「つきことか」は、「たちすずか」よりも5日早く出穂しました。穂は「たちすずか」よりも小さく、やや長稈のようです。他所での状況は未確認ですが、試験圃では「たちすずか」よりも枯れ上がりがかかなり早く始まりました。分析の終わっていない現状では主観的な評価しかできませんが、最も適期とされる10月上中旬は、より甘みを強く感じた新品種「つきすずか」が、そして、寒くなってきた10月下旬以降は、より緑色の濃かった「たちすずか」の方がおいしそうに見えました。



(つきすずか)

いずれも、現在、分析作業中のため、改めて報告させていただきます。

※畜技が行っている管理技術について詳しく知りたい方は、0824-74-0332(技術支援部)までご連絡ください。